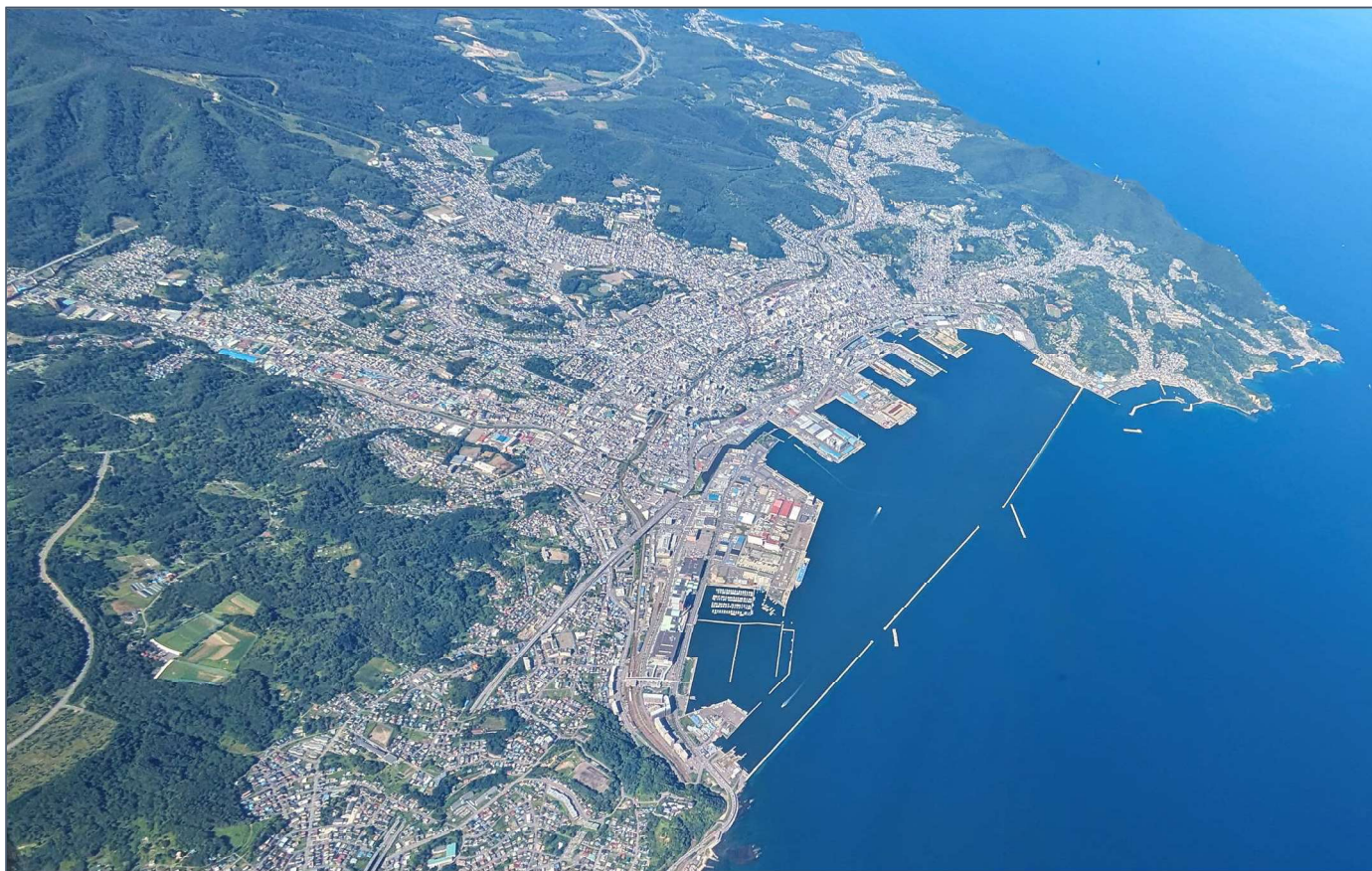


小樽港 だより

2025年
№24

発行：小樽港貿易振興協議会 (Otaru Port Sales Promotion Association)



小樽港「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」受賞！



「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」表彰式

を進めていきたい」と力強く宣言しました。

小樽港の受賞理由として、北海道の物流・交流拠点として長年にわたり重要な役割を果たしてきた小樽港が、近年では世界中からクルーズ船が寄港するようになり、小樽運河や中心市街地に近接した第3号ふ頭の再開発を進め、大型クルーズ船対応岸壁の整備や、官民連携による「みなとオアシス小樽」などの新たな観光・交流拠点形成に取り組んだことで、歴史的な景観を有する街並みと新しい港の風景が融合した風情ある港湾空間が形成し、来訪者や市民の賑わい・交流が新たに創出されたことなどが「みなとの元気」を大きく向上させたと評価されました。

当協議会は「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」受賞をさらなる「みなとの元気」を高めていく契機として、これからも小樽港の発展に取り組んでまいります。投票していただいた皆様、誠にありがとうございました。

小樽港が、公益社団法人日本港湾協会が主催する「ポート・オブ・ザ・イヤー2024」に選ばれました。この賞はその年の「みなとの元気」を高めた港の中で、同協会が発行する情報誌「港湾」読者等の投票により、その年に最も支持の多かった港湾が選定されるものです。

1月22日には東京で表彰式が行われ、国会議員や全国の港湾所在都市の首長、港湾関係者等が集まる中、日本港湾協会の進藤孝生会長から小樽港の港湾管理者であり当協議会の会長でもある迫俊哉市長に賞状と楯が授与されました。表彰式の中で迫市長は受賞プレゼンを行い、「これからも小樽の強みである港を生かしたまちづくり

小樽港外貿コンテナ取扱個数 2年連続で増加

(運航会社：神原汽船株式会社 小樽港代理店：ノーススタートランスポート株式会社)

神原汽船(株)が提供する中国コンテナサービスは、中国主要港(上海、大連、青島、天津、寧波) から日本の地方港 11 港へのダイレクトサービスを展開しております。2022 年には新造船 6 隻をコンテナ航路に投入し、船隊全 7 隻が自社船となり、安定した輸送サービスをお届けしております。



荷役中の「HARMONIZED EARTH」

2024 年は、能登半島の大地震に始まり、ウクライナや中東の情勢、米中関係の緊張といった地政学的リスクが続き、海運業界にとって適応力が求められる 1 年となりました。弊社の主力航路である中国航路においては、中国国内の経済成長の鈍化に伴い、消費需要や製造業活動の減速が影響し、前年に比べて全体のコンテナ取扱量が減少いたしました。しかしながら、小樽港における取扱量は 2 年連続で前年比を上回ることができました。これはひとえに荷主関係者様の変わらぬご支援と港湾関係者様のご協力の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

中国市場が弊社の主力航路であることは変わりませんが、今後は東南アジア、インドなど新たな市場にも注力してまいります。東南アジア航路で協力関係にある RCL 社や、昨今業務提携を締結した COSCO 社と連携して、一層強固で高品質なサービス体制を構築していきます。

今後も国際海上輸送を通じて「地域の活性化と経済発展」を目指し、地域とともに成長していく存在であり続けたいと考えております。本年も引き続き、小樽港における安定的なサービス提供に尽力してまいりますので、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024 年外貿コンテナ取扱個数 (速報値)			(単位: TEU)
種別	輸出	輸入	合計
実入りコンテナ	302(対前年 117.0%)	7,207(対前年 106.0%)	7,509(対前年 106.4%)
空コンテナ	6,918(対前年 107.7%)	7(対前年 233.3%)	6,925(対前年 107.7%)
取扱個数	7,220(対前年 108.0%)	7,214(対前年 106.1%)	14,434(対前年 107.1%)

【小樽港発着航海日数】		
	輸入	輸出
上海	6日	4日
大連	9日	-
青島	8日	-

※上海トランシップにより東南アジアや中東、欧米サービスを提供しています。

東京地区小樽港セミナー

日ごろから小樽港とお付き合いのある東京地区の荷主や、船社などのお取引先様を招待し、小樽港への理解を深めていただき、さらなる利用促進を図るため、11月19日に東京で小樽港セミナーと懇親会を開催しました。

セミナーでは、新日本海フェリーグループが提供する物流ソリューションの紹介、2024年問題に対するフェリー利用のメリットなどについて講演をしました。

セミナーに続いて開催された懇親会には昨年を上回る約 150 名の皆様にご参加いただきました。



小樽港セミナーの様子

「潮ねりこみ」参加

会員の皆様と一致団結し、まつりを盛り上げるとともに、小樽港をアピールするため、「第 58 回おたる潮まつり」の「潮ねりこみ」に団員数 81 名の小樽港貿易振興協議会梯団として参加しました。

途中から降りだした雨に濡れながらも、参加者全員が活気に満ちた雰囲気のまま踊りきることができました。

今年も当協議会梯団として参加予定でおります。引き続き多くの方にご参加いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



ねりこみ出発前に集合写真

新日本海フェリー就航 55 周年 舞鶴航路新造船投入！

(運航会社：新日本海フェリー株式会社)

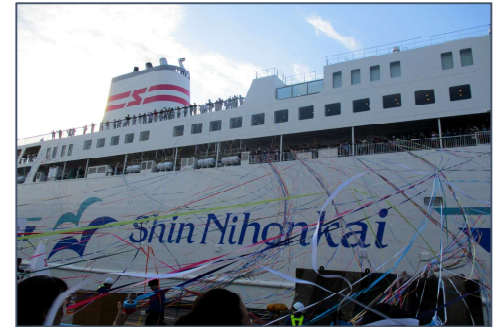
～ 就航55周年 ～

小樽～新潟・舞鶴間、苫小牧東～秋田・新潟・敦賀間を結ぶフェリーを運航しております新日本海フェリー(株)です。1970年に小樽～敦賀～舞鶴の航路を開設「すずらん丸」が就航し、今年で55周年を迎えます。当時は週2便の運航でしたが、現在は小樽～舞鶴便・苫小牧東～敦賀便を含め他の航路もデイリー運航し、現在8隻4航路を持つフェリー会社となりました。



就航当時の「すずらん丸」

昨年は小樽～新潟航路50周年を迎え、記念イベントやオリジナルグッズの販売など様々な催しで周年の祝賀を盛り上げました。6月8日に小樽港にて行われた記念式典では、協議会役員の皆様はじめ、多くのご来賓にお集まりいただき、祝福や感謝の言葉を頂戴いたしました。「あざれあ」出港時には、船内から紙テープ投げが行われ、小樽双葉高等学校吹奏楽部の皆様による演奏もあり一層華やかな式典となりました。



「あざれあ」紙テープ投げでお見送り

～ 舞鶴航路に新造船投入 ～

今年1月には、現在小樽～舞鶴に就航している船舶（「はまなす」「あかしあ」）のリプレースを発表しました。

新造船主要目は、全長199.0m、総トン数約14,300トン、主機8,540kw×4基、航海速度28.3kt・積載台数トラック約150台・乗用車約30台、旅客定員286名です。第1船は三菱重工業株式会社下関造船所で建造し、2025年12月就航を予定しております。

昨年と今年の周年記念に加え、船舶リプレースの発表により小樽港の更なる賑わいに取り組み、これからもお客様に快適な船旅を過ごしていただく為に、より良いサービスの向上に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。



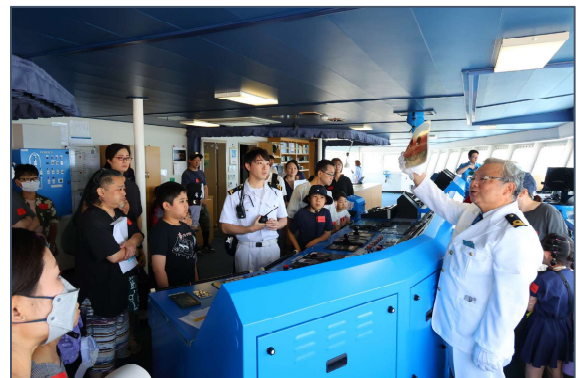
予定に合わせてやすくて便利！ 小樽港フェリー運航ダイヤ					
新潟航路			舞鶴航路		
月～土	小樽港	翌日	毎日	小樽港	翌日
17時00分発	↓	4時30分着	23時30分発	↓	20時45分着
	↑			↑	
翌日	新潟港	火～日	翌日	舞鶴港	毎日
9時15分着		12時00分発	21時15分着		23時50分発

フェリー船内見学会を開催しました

フェリー小樽～新潟航路の就航50周年を記念して、市内の小学生親子を招待し、停泊中のフェリー「あざれあ」の船内見学会を6月29日に開催し、抽選で選ばれた約50組の親子が参加しました。

フェリースタッフの案内により、客室や大浴場のほか、普段は立ち入ることができない操舵室などを見学。操舵室では、エンジンや機材の説明がされ、参加した小学生は興味津々の様子で、質問タイムも大盛り上がり。お昼ご飯には船内レストランで人気のカレーが振る舞われ、親子で仲良く食事する光景が随所で見られました。

参加者からは「次はフェリーで旅行してみたい」「カレーが美味しかった」との声も聞かれ、フェリーの魅力がたくさん伝わるイベントとなりました。



操舵室で説明を真剣に聞く参加者

クルーズ船をめぐるニュースとこれからの再開発

■クルーズ船寄港数は過去2番目に多い32回

2024年は、第3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁が供用開始され、14万トンクラスのクルーズ船の受入れが可能となりました。これにより、市内中心部から離れた勝納ふ頭でしか受入れができなかった大型クルーズ船を、市内中心部に近い第3号ふ頭で受入れることができるようになりました。

昨年は、クルーズ船寄港数が過去2番目に多い32回であり、全てのクルーズ船が第3号ふ頭での受入れとなりました。9月にはこれまで寄港したクルーズ船の中で最大の「カーニバル・パノラマ（133,868トン）」が乗船客約4,000人を乗せて寄港したほか、12月には冬季では初の寄港となった「コスタ・セレーナ（114,261トン）」の受入れなど、今後につながる新たな動きが見られた年となりました。

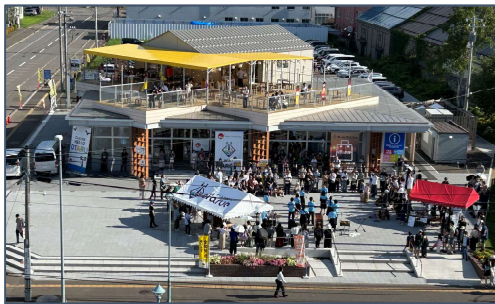


12月に寄港した「コスタ・セレーナ」

■「観光振興大賞」&「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024」も受賞！

大型クルーズ船が第3号ふ頭に寄港できるようになったことで、市内中心部との距離が近くなり、寄港時には多くの乗船客やクルーが徒歩で市内観光や買い物に向かう姿が多く見られたほか、クルーズ船の見学やお見送りイベントに参加するために多くの市民や観光客が港に訪れるようになりました。

このような中、クルーズ船対応岸壁の整備や観光拠点づくりのきっかけとなった小樽商工会議所の「港湾振興プロジェクト」の取り組みが、2024年度の「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」の優秀賞に選ばれました。また、乗船客が徒歩で寄港地観光が可能な非常に利便性が高い港であることや、港が市民や観光客、



観光客で賑わう「みなとオアシス小樽」

乗船客の交流の場として新たな賑わいを創出していることが認められ、日本外航客船協会が主催する「クルーズ・オブ・ザ・イヤー2024」の特別賞に選出されるなど、官民の取り組みが広く評価された1年となりました。

今回、評価されたことを小樽港の強みとして、今後のクルーズ船の誘致に活かしていくとともに、小樽港に寄港するクルーズ船の乗船客や関係者の皆様に満足いただけるよう、引き続き官民が連携し、受入態勢を整えてまいります。

■いよいよ大詰め！ 第3号ふ頭及び周辺再開発

2024年3月には観光情報の発信や特産品を販売する「小樽国際インフォメーションセンター」「ポートマルシェ otarue」が開業し、第3号ふ頭周辺が「みなとオアシス小樽」に登録され、国内外の観光客で賑わいを見せています。

第3号ふ頭及び周辺再開発もいよいよ大詰めを迎えており、2025年度が最終年度となります。現在、建設が進められている「小樽港観光船ターミナル」が7月に完成予定のほか、イベント会場や親水空間となる緑地も2025年度中に完成する予定です。

第3号ふ頭とその周辺はこれからも新しい人の流れを生み出す観光の拠点として、さらなる賑わい空間の創出を目指していきます。



再開発のイメージパース

小樽港貿易振興協議会（O P S）

〒047-0007 小樽市港町4番2号 TEL(0134)23-1107 FAX(0134)23-1109 小樽市産業港湾部港湾室内

【E-mail】 kowan@city.otaru.lg.jp 【ホームページ】 <http://www.city.otaru.lg.jp>

※当協議会に対するご意見・ご要望、また、各種情報等がございましたら、上記までご連絡をお願いいたします。